

第13期
「京都教師塾」



平成31年1月12日

学びの広場

京都市教育委員会 教員養成支援室

専門講座が始まりました。それぞれの校種・職種で求められる資質や実践的指導力について学ぶ良い機会です。1回目は小学校・中学校の模擬授業の専門講座でした。皆さんはどのようなことを学び考えたのでしょうか。

模擬授業「小学校における教科学習 ～自ら学ぶ力を育む授業づくり～」 講師 日比 淳子 指導主事



1 全体会

全体会で印象に残ったことは、教師の価値付けが子どもの自信につながるということです。模擬授業の中で、児童の発表や活動について、「～ということがわかったね」「こういうところが工夫できているね」など、ねらいに合った発言をされていました。児童がただ発表して終わりだけではなく、クラス全体の新たな学びにつなげていたのが素晴らしいと感じました。子どもたちは遊び感覚で楽しんでやっていることでも、教師がねらいや意図をもっておくことが大切だと分かりました。工夫された教材がたくさんあって、教材研究もすぐくされているなと思いました。

2 分散会

分散会では、自ら学ぶ姿の子ども像を考え、どのように子どもたちが意欲的になる授業づくりを行えばよいかについて考えました。自ら学ぶ姿とは、興味や関心をもって積極的に授業に参加している姿だと考え、そのためには、生活と関連づけた教材、グループ活動、発達段階や子どもの実態に合わせた条件設定や活動にする必要があると思います。楽しい、やってみたいと思うからこそ、授業に主体的になり、学ぶ力を育むことにつながると考えます。簡単すぎると子どもたちはつまらないと感じると思うし、難しすぎるとやる気がなくなり自信を失うと思います。活動の手順を踏んだり、細かい支援をしたりすることにより、「できた」「わかった」が生まれる授業が大切だと思いました。

3 まとめ

教師が授業を楽しんでいることが、子どもたちが楽しいと思うことにつながると思います。苦手な分野になると、教えることに不安を持ってしまいます。それは子どもにも伝わってしまうので、まずは自分が自信を持って教えることができるようになりたいです。

今回は音楽科の授業を通しての学びでしたが、指導者は授業をする場合、教材内容の把握と理解に努めることが大切だと考えます。例えば、「教材を通して育てたい力を確認する」「指導計画を見直し、教材としてのポイントを確認し、指導すべき内容を把握する」などです。また教材として躓きやすい所を把握することも大切です。例えば「関心・意欲が深まりにくい所」「定着しにくい所」「想定される教材としての躓きに陥りやすい所」などです。躓きを事前に想定し、学習に対する意欲を高める具体的な手立て、躓きに対する指導・支援の方法を考えておくことが大切です。



分散会の様子

小学校

中学校



模擬授業「生きる力を育む道徳教育 ～自らを律する力を育む授業づくり～」

講師 藤井 泉 副主任指導主事



1 全体会

今回の講座を通じて、道徳では意見を1つにまとめる必要はないということ学びました。私が小学校・中学校で受けてきた道徳の授業を振り返ると、授業の最後には必ず「まとめ」が存在しました。また、倫理的にはいけないことを扱うなど、発問に対する理想的な答えが決まっている場合が多かったです。ですから、生徒どうして意見が分かれる、1つの結論にたどりつかない授業はとても新鮮でした。他教科と「特別の教科 道徳」の違いはここにあると思います。数学や英語では答えは決まっています、その答えに生徒を導くことが目標となっています。それに対して、道徳では、自分の考えとは異なる考えに触れることや、より考えを深めることが目標になっています。もやもやしたままで終わってもいいということに気がきました。

2 分散会

道徳の授業をするにあたって、授業研究が大切であるということ学びました。まずは、計画として、扱う題材を選ぶことです。みんなが同じ意見になるようなものではなく、複数の考えをもつ生徒が出てくるような題材を扱うことが大切です。また、どんなに優れた題材であっても、発問の工夫を施さなければ生徒の考えは深まりません。自分だったらどうするか、なぜその行動を選んだのかなど、様々な発問の仕方を身に付けたいと思いました。そして、発問を考える上で、どのような反応が返ってくるかを予測することの大切さにも気付かされました。この予測には、生徒の実態をつかむこと、教師自身が豊かであることが求められるのではないかと考えました。

3 まとめ

生徒が本音を話せるような雰囲気をつくることの大切さに改めて気付かされました。そのためには、普段からの、生徒間、教師・生徒間の信頼関係が求められると思います。また、その雰囲気づくりの1つの場として、道徳を活用することもできるのではないかと考えました。

生徒から多様な意見を引き出す発問の工夫や、本音で話し合える学級づくりが大事だということですね。私事ですが、先日バスに乗ってこられたおばあさんに席を譲ろうと声をかけました。遠慮されましたが、結局座ってもらうことができました。そのことを気分よくAさんに話すと、「価値観の押しつけかも？」と…あなたなら、これを題材にどのような授業を考えますか？

道徳教育は、小・中学校では「道徳」の時間を要として、また高等学校では「公民科」や「特別活動」のホームルーム活動などを中心にして、学校の教育活動全体を通じて行います。担任のみならず、養護教諭や栄養教諭が指導する場合があります。すべての教職員で、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることが大切です。



青少年科学センター(12/10)

フィールドワークの様子

6年生と一緒に、実験や観察もしました。



子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で
「**児童の権利を保障する京都市民運動**」を実践しよう!

